

科目名称：	美術基礎	
担当者名：	堀 一浩	
区分	授業形態	単位数
留学生別科に関する科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
この科目は、留学生が美術学科に入学する前に行う事前演習です。入学後の演習科目に対応するためにデッサンなどの基本的な絵の描き方を学びます。		
授業の達成目標・到達目標		
デッサンで使用する道具の使い方やものの見方について学び、入学後の演習授業にスムーズに行える技能を習得することを目標とします。		

留学生別科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神「遊学の精神の涵養」と設立の理念「金城から地球を歩こう」を基に、基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	○
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、それぞれの専門分野において貢献できる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様な社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力が身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)			50	50	100
全学DP(2)					0
全学DP(3)					0
全学DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
授業課題	課題の内容を理解して自分に足りないものを考えながら積極的に取り組む。	課題の内容を理解して興味を持って取り組む。	課題の内容を理解できるように努力している。	課題への理解と興味が低く、意欲的な取り組みが不足している。
表現方法の習熟	画材の特性を理解し、表現方法に見合った使い方を工夫できる。	画材の特性と適切な表現方法を理解し、使い方に工夫を試みる。	画材の特性と表現の方法に理解を深める。	画材への理解が低く、表現に活用する方法への工夫の不足している
作品の完成度	自己の目標を明確にし、形態・色彩・質感・空間が高い技術で表現されている。	自己の長所・短所を理解し、形態・色彩・質感・空間が破綻なく表現されている。	形態・色彩・質感・空間が表現できている。	形態・色彩・質感・空間が表現できていない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 道具の使い方(鉛筆の使い方や削り方について学ぶ)	このシラバスをよく読んでおく	15分
第2回 自画像、手、部屋の隅を描く(現時点でのデッサン力の記録をとる)	道具の使い方を復習しておく	30分
第3回 自由画を描く(鉛筆の線の個性や表現の豊かさを体験する)	自画像を再度、描いてくる	30分
第4回 花びん/顔の絵を描く(左脳モードと右脳モードの体験)	自由画の復習をする	30分
第5回 上下逆さま画を描く その1(右脳を使って絵の模写を行う) グループワークで振り返る	自宅の静物を描いてくる	30分
第6回 上下逆さま画を描く その2(右脳を使って絵の模写を行う) グループワークで振り返る	上下逆さま画を復習する	30分
第7回 ピクチュアプレインの上に手を描く(ピクチュアプレインの使い方と手を描く)	上下逆さま画を復習する	30分
第8回 ピクチュアプレインの上に手を描き、紙に写す(ピクチュアプレイン上の手の紙に模写する)	ピクチュアプレインの復習をする	30分
第9回 モノを持った手を描く(モノを持った手を描く)	ピクチュアプレインの復習をする	30分
第10回 果物を描く(果物を描く)	モノを持った手を描く復習をする	30分
第11回 ネガのスペースで葉を描く(ネガのスペースを捉える訓練)	果物を描く復習をする	30分
第12回 スポーツ選手を描く(ネガのスペースを捉える訓練)	ネガのスペースを描く復習をする	30分
第13回 箱を描く その1(デッサンを描く)	スポーツ選手を描く復習をする	30分
第14回 箱を描く その2(デッサンを描く)	デッサンの復習をする	30分
第15回 箱を描く その3(デッサンを描く)	今までの総復習をする	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題を描いてくることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。
授業への貢献・積極的関与を50%で評価する。提出物を50%で評価する。

課題に対するフィードバック

授業毎に課題をチェックし、修正してもらう。

教科書・参考書

教科書：なし(プリント配付)